

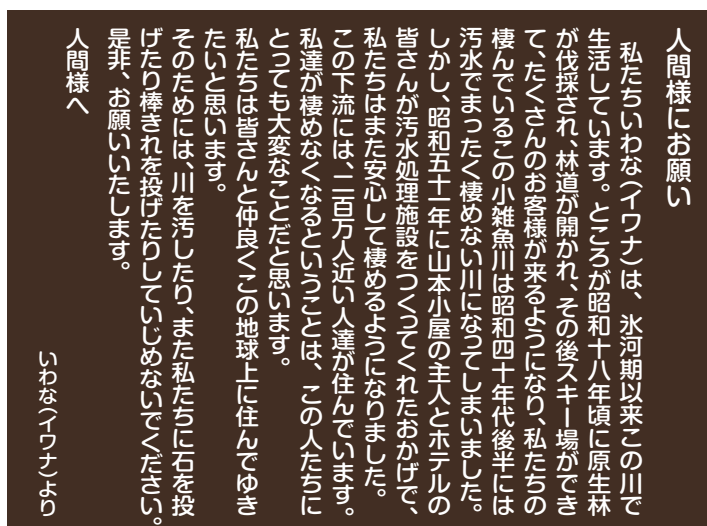
◆原種イワナ保存活動

志賀高原には原種イワナが生息しています。原種イワナ（前々から志賀高原に住んでいるイワナ）はオレンジ色の斑紋が鮮やかなイワナで、亜種名はニッコウイワナです。

その保存には志賀高原漁業協同組合の五十余年にわたる活動が大きく貢献しています。

雑魚川の支流を禁漁区としてイワナの産卵場を確保しました。支流で産卵され、卵からかえったイワナは雑魚川に移動しその結果原種イワナが増加しました。支流での河川工事の際には、イワナを安全な場所へ「引越し」させることも行われました。

また、独自ルール「20cm以下のイワナはリリース（放流）する」を決め釣り人に協力を求めるとともに、志賀高原を訪れた人々に保護の大切さを呼びかけています。



人間様へお願い



◆自然にやさしい開発工法

オリンピック関連道路“志賀ルート”の建設

「できるだけ自然を変えないで自然と調和する道路づくり」を理念に、工事が進められました。急峻な地形や水源付近を通過する所では橋梁が、スキーコースの下にはトンネルが建設されました。

道路の斜面が崩れないようにする擁壁工事では現場で発生した自然石を利用して巨石積み（巨石工法）が行われました。



巨石工法

◆ABMORI プロジェクト

歌舞伎俳優の市川海老蔵さんからの提案「地球のため、日本の美しい四季を守っていくため何かしたい」を受けて「いのちを守る森づくり」として自然豊かな森に戻すための活動 ABMORI（エビモリ）がスタートしました。ABMORI は閉鎖されたゲレンデに植樹する森林再生活動です。

全国から参加者があり、2014年（平成26年）から毎年1万本程度の苗木植樹が行われています。



植樹風景

◆外来植物の除去

志賀高原の高天ヶ原湿原ではヨシが大繁殖し、ミズバショウなどの在来生物が著しく減少してしまいました。また、ルピナス（和名ノボリフジ）などの外来植物が目立ち、湿原内への侵入も心配されました。

高天ヶ原地区の「やなぎらの会」が中心となり、信州大学自然教育園のスタッフ、学生、ボランティアの方が参加して、ヨシ類の刈り払いや外来種を除去する活動が始まりました。

除去された外来種の植物はヨシ紙や草木染め・たたき染めなどに活用されます。



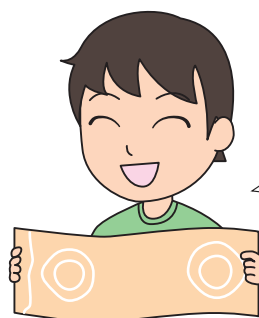
ヨシ類の除去作業



ミズバショウが咲き始めた高天ヶ原の湿原



除去した植物による手ぬぐいの草木染め



ぼくがやった
手ぬぐいの草木
染めでももしろ
い模様ができた
よ！

がいらいしゅ ざいらいしゅ 外来種と在来種

もともとその場所にいなかったが、人の活動によって持ち込まれた生き物を外来種といいます。反対に、もともとその地域にいた生き物は在来種と呼ばれます。外来種の被害を防ぐため、次の原則が大事です。

①入れない ②捨てない ③拡げない